

1. 附属学校の役割

- 学部・大学院における研究を附属学校で実際の指導に取り入れ、その結果を学部・大学院の教育研究に反映していく実験・実証校としての役割。
- 学部・大学院の教育研究に基づいて、教育実習生を指導する教育実習校としての役割。
- 一般公立学校と同様に普通教育を行う公教育の役割。
- 地域の学校と連携して教育、研究を推し進める役割。

2. 東京学芸大学附属学校教育目標

東京学芸大学附属学校は、在学する幼児・児童・生徒に普通教育を施すとともに、大学と連携して実証的研究や実践的研究に取り組むことにより、

- 協働して課題を解決する力
- 多様性を尊重する力
- 自己を振り返り自己を表現する力
- 新しい社会を創造する力

の4つの力を持った次世代の子どもを育成する教育を推進する。

3. 教育目標

人や身近な環境にかかわる中で、主体性と協同性を育みながら、明るく伸び伸びと自己を発揮する子どもを育てる。

4. 育てたい幼児像

教育目標および幼児期の終わりまでに幼稚園教育において育みたい3つの資質・能力(「知識及び技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力等の基礎」、「学びに向かう力・人間性等」)を踏まえ、本園舎において育てたい幼児像を以下のように策定する。

- 身近な人や環境とかかわりながら、心を動かし、様々な感情を味わい、自分のしたいことや周囲の人の思いを感じられる子ども。(感動する子ども)
- 豊かな体験と様々な考えに触れることを重ねながら、試行錯誤を深める子ども。(考える子ども)
- 自分のしたいことに取り組むと同時に、他者とかかわりの中ですべきことにも目を向けて行動する子ども。(行動する子ども)

5. 中期経営目標

- 幼児教育スタートプランに基づき、さらに本学ならではの各学校種・支援系との連携を踏まえた、幼小中接続を見通した幼児教育カリキュラムの開発。
- 本学教員養成フラッグシップ大学構想に基づき、幼稚園教員養成における教育実習DXの活用方法の開発を行い、他校種教員養成への汎用性についても検討を進める。
- 本学の教員養成フラッグシップ大学構想に基づき、教職大学院生の高度な実践力育成に寄与する幼児教育現場としてのカリキュラムを開発する。
- 社会貢献・研究：大学教員や大学各実践センター等との研究プロジェクトにより、附属幼稚園教員の研究力向上を推進し、その成果を多面的な幼児教育の意義を見出し発信することに反映させる。

6. 令和4年度 経営目標

(1) 園運営の目標

- ◎大学との連携により、本園の教育内容等についてより多面的な意味と意義を見直し、見える化を進める。
- 教員養成フラッグシップ大学構想に基づく質の高い魅力ある教員像を示すために、教員の働き方改革として、園務のデジタル化や大学、各種専門機関等との連携を推進する。

(2) 教育活動の目標

- ◎新型コロナウイルス感染防止対策を基本としながら、前年度までの経験及び研究、大学プロジェクト成果等を反映させたカリキュラムの開発を図る。
- ◎安全・安心を基盤として幼児の育ちを保障するために、保護者との様々な情報共有をより細やかに実施する。
- 保護者活動についても、感染防止を基本としながら、改善方法を検討し、試行を重ねていく。

(3) 研究活動・教員研修の目標

- ◎公開保育検討会を年6回開催し、web開催による研究協議会を1回開催することにより、教員の研究的な視点に基づく説明能力の向上を図る。
- コロナ禍を踏まえたカリキュラムマネジメントを通して、『人とかかわりを通した幼児の学びを再考する』という研究テーマ(2年次)を推進し、活用可能な成果の発信を行う。
- 「令和4年度学習指導要領・幼稚園教育要領及び教科書に関する研究プロジェクト」における研究課題「図画工作・美術における幼小中高一貫カリキュラム構造の検証～[共通事項]を基盤とした附属4モデルの提案～」及び「令和34年度特別開発研究プロジェクト」における、研究課題「幼稚園教諭養成の新設(領域に関する専門的事項)のカリキュラム開発—理論と実践による領域横断的探究—」のもとで、本学大学教員との連携を図る。

(4) 学生の教育・支援活動の目標

- ◎3年次基礎実習における教育実習DXについて、小金井園舎・竹早園舎・大学幼児養育教室教員との共有を図り、学生の学びを多面的に支えると同時に教員同士の指導力向上を図る。
- ◎教職大学院生実習を受け入れ、附属幼稚園での実習カリキュラムの在り方について大学教員とともに検討を進める。
- 大学同一敷地内の利便性を活用した、学校教育系学生・教育支援系学生及び、大学院生・教職大学院生・留学生に実践的な実習・研修の場フィールドを提供するとともに、大学教員と連携しカリキュラムへの位置づけを検討する。

(5) 社会貢献活動の目標

- ◎他の幼稚園・保育所・こども園等と連携を図り、安全衛生及び危機管理に関する情報交換や現代課題に関する情報共有、教員の交流・研修の方策について検討を進める。
- ◎外部研究会や他教育機関への講師派遣及び研修の受け入れを積極的に行う。
- 園庭開放や子育て相談の公開等を行い、保護者のニーズに応じた子育て支援に努める。

【学年別教育日数および教育時数の配当】

(1) 年間教育日数配当表

学年 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
3 歳児学年	16	18	22	13	0	20	21	20	18	15	18	13	194
4 歳児学年	17	18	22	13	0	20	21	20	18	15	18	13	195
5 歳児学年	17	18	22	14	0	20	21	20	18	15	18	12	195
備考													

(2) 各保育内容の年間授業時数配当表

学年 \ 月		3 歳児	4 歳児	5 歳児	備 考
内 容	健 康	1 日の教育時間 月・火・木・金 9：00～13：30 水 9：00～11：30 年間の教育週数 41週1日			
	人間関係				
	環 境				
	言 葉				
	表 現				
備 考		「幼稚園教育要領第1章総説 第2節 教育課程の編成」に基づいて年間の教育週数、時間を設定している。			